

柿其森林事務所（長野県木曾郡南木曾町読書戸場1912-1）に利用した木材に係る炭素貯蔵量（CO<sub>2</sub>換算）

延べ床面積	国産材 利用量	国産材の 炭素貯蔵量 (CO <sub>2</sub> 換算)	木材全体 利用量	木材全体の 炭素貯蔵量 (CO <sub>2</sub> 換算)
123.37 m <sup>2</sup>	30 m <sup>3</sup>	21 t-CO <sub>2</sub>	30 m <sup>3</sup>	21 t-CO <sub>2</sub>

この表示は、林野庁「建築物に利用した木材の炭素貯蔵量の表示ガイドライン」（令和3年10月1日付け3林政産第85号林野庁長官通知）に準拠し、この建築物に利用した木材が貯蔵している炭素（CO<sub>2</sub>換算）の量を示すものです。

木材は、森林が吸収した炭素を貯蔵しており、木材を建築物等に利用していくことは、「都市等における第2の森林づくり」としてカーボンニュートラルへの貢献が期待されています。

【計算式】

$$\text{木材の材積 (m}^3\text{)} \times \text{密度 (t/m}^3\text{)} \times \text{炭素含有率} \times 44/12 = \text{炭素貯蔵量 (CO}_2\text{換算) (t-CO}_2\text{)}$$

【計算】

○ 製材	ヒノキ	17.99 m <sup>3</sup>	×	0.383 t/m <sup>3</sup>	×	0.500	×	44/12	=	12.6 t-CO <sub>2</sub>
○ 製材	スギ	0.92 m <sup>3</sup>	×	0.331 t/m <sup>3</sup>	×	0.500	×	44/12	=	0.6 t-CO <sub>2</sub>
○ 製材	カラマツ	2.44 m <sup>3</sup>	×	0.435 t/m <sup>3</sup>	×	0.500	×	44/12	=	1.9 t-CO <sub>2</sub>
○ CLT構造材	スギ	6.20 m <sup>3</sup>	×	0.331 t/m <sup>3</sup>	×	0.500	×	44/12	=	3.8 t-CO <sub>2</sub>
○ 合板	樹種不明	2.59 m <sup>3</sup>	×	0.542 t/m <sup>3</sup>	×	0.493	×	44/13	=	2.5 t-CO <sub>3</sub>
									計	21.4 t-CO <sub>2</sub>

※ 木材使用量には、車庫棟（延べ床面積39.740m<sup>2</sup>）1棟に使用した木材使用量を含みます。

（責任者名） 中部森林管理局 総務企画部 経理課 経理課長

（連絡先）TEL 050-3160-6527

中部森林管理局 総務企画部 専門官（契約適正化・債権管理担当）

（連絡先）TEL 050-3160-6533